

01 仏教学専攻

Buddhism

第一章

第二章

仏教

国文

英米

地理

歴史

社会

心理

経済

商

公法

私法

経営

診療放射線

びんごんぎ

第四章

(1) 修士課程

● 目的

仏教学専攻は、仏教学における精深かつ高度で専門的な知識を有し、文化の進展と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的とする。

● 学位授与の方針

修士課程の学位については、仏教学専攻にて設置された禅学・仏教学・宗教学に関する講義科目や演習科目を通して専門知識を修得し、学術的に有意義な研究テーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究能力を錬磨し、当該テーマに関する先行研究を踏まえ、最終的に所定の年限で修士論文を作成した者に対して授与する。その認定は、業績審査委員会の報告を受けて、人文科学研究科仏教学専攻委員会の審議によってなされる。

● 教育課程の編成・実施方針

仏教学専攻では仏教に関わる広範な分野を扱うことから、幅広い教育課程を編成している。コース制は導入していないが、禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などに分かれ、時代や地域に応じた思想・文化・歴史の研究を逐行できるよう教員を配置している。修士課程においては、分野に応じた研究科担当教員による講義と演習の授業がなされ、また指導教員による個人指導も行なっている。

● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

● 学位論文の審査基準

修士論文においては、計三人の審査員による厳正かつ客観的な審査が実施される。修士論文では先行研究を踏まえているか、一定の研究レベルに達しているかを評価の基準に据え、論文の様々な局面が検討される。

● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修してほしい。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、指導教員以外の演習科目の中から10単位、他専攻の講義科目の中から4単位に限り履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得なければならない。
3. 指導教員が必要と認めた場合は、交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）〈P.12〉」の授業科目を履修することができる。
4. 他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
5. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定されない。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
宗学特講Ⅰ	講義	4	専任	岩 永 正 晴	(隔年開講のため本年度休講)
宗学特講Ⅰ	演習	4	専任	岩 永 正 晴	
宗学特講Ⅱ	講義	4	専任・博(文)	角 田 泰 隆	
宗学特講Ⅱ	演習	4	専任・博(文)	角 田 泰 隆	
宗学特講Ⅲ	講義	4	専任	石 井 清 純	(隔年開講のため本年度休講)
宗学特講Ⅲ	演習	4	専任	石 井 清 純	
禅学特講Ⅰ	講義	4	専任	晴 山 俊 英	
禅学特講Ⅰ	演習	4	専任	晴 山 俊 英	
禅学特講Ⅱ	講義	4	専任	松 田 陽 志	(隔年開講のため本年度休講)
禅学特講Ⅱ	演習	4	専任	松 田 陽 志	
インド仏教特講Ⅰ	演習	4	客員	矢 島 道 彦	
インド仏教特講Ⅱ	講義	4	専任	池 田 練太郎	
インド仏教特講Ⅱ	演習	4	専任	池 田 練太郎	
インド仏教特講Ⅲ	講義	4	専任・博(仏)	松 本 史 朗	(隔年開講のため本年度休講)
インド仏教特講Ⅲ	演習	4	専任・博(仏)	松 本 史 朗	
インド哲学特講	講義	4	専任	金 沢 篤	
インド哲学特講	演習	4	専任	金 沢 篤	
チベット仏教特講Ⅰ	講義	4	専任・Ph.D. 博(仏)	四津谷 孝 道	
チベット仏教特講Ⅰ	演習	4	専任・Ph.D. 博(仏)	四津谷 孝 道	
チベット仏教特講Ⅱ	講義	4	専任	木 村 誠 司	(隔年開講のため本年度休講)
チベット仏教特講Ⅱ	演習	4	専任	木 村 誠 司	
中国仏教特講Ⅰ	講義	4	専任・博(文)	吉 村 誠	(隔年開講のため本年度休講)
中国仏教特講Ⅰ	演習	4	専任・博(文)	吉 村 誠	
中国仏教特講Ⅲ	講義	4	専任・博(仏)	奥 野 光 賢	
中国仏教特講Ⅲ	演習	4	専任・博(仏)	奥 野 光 賢	
中国禅宗史特講Ⅰ	講義	4	兼担・博(文)	小 川 隆	(隔年開講のため本年度休講)
中国禅宗史特講Ⅰ	演習	4	兼担・博(文)	小 川 隆	
中国禅宗史特講Ⅱ	講義	4	専任・博(仏)	程 正	
中国禅宗史特講Ⅱ	演習	4	専任・博(仏)	程 正	
日本仏教特講Ⅱ	講義	4	専任	飯 塚 大 展	(隔年開講のため本年度休講)
日本仏教特講Ⅱ	演習	4	専任	飯 塚 大 展	
日本禅宗史特講Ⅰ	講義	4	専任	佐 藤 秀 孝	
日本禅宗史特講Ⅰ	演習	4	専任	佐 藤 秀 孝	
仏教学特講Ⅱ	講義	4	専任・博(文)	石 井 公 成	
仏教学特講Ⅱ	演習	4	専任・博(文)	石 井 公 成	
仏教学特講Ⅲ	講義	4	専任	長谷部 八 朗	(本年度休講)
仏教学特講Ⅲ	演習	4	専任	長谷部 八 朗	
仏教美術史特講	講義	4	専任	村 松 哲 文	
仏教美術史特講	演習	4	専任	村 松 哲 文	
宗教人類学特講	講義	4	兼担・博(文)	矢 野 秀 武	
宗教人類学特講	演習	4	兼担・博(文)	矢 野 秀 武	

第一章

第一章

仏教

国文

英文

地理

歴史

社会

心理

経済

商

公法

私法

経営

診療放射線

リハビリ

リハビリ

第四章

● 授業科目の概要

■ 宗学特講Ⅰ【演習】

岩永 正晴

曹洞宗学において最も重要で基本的な『正法眼蔵』について、その注釈史を学びつつ、注釈書類を対象として演習を行う。当然、文献読解の方法を身につけることが目的となる。

■ 宗学特講Ⅱ【講義】

角田 泰隆

曹洞宗に関わる文献の研究を行う。この科目では、特に道元禅師の著作を取り上げる。まず、その文献の成立や書誌など、文献学的研究を行い、その後、思想的・内容的研究を行う。これらについては、伝統的解釈やこれまでの研究成果を尊重しながらも、あくまでも文献に基づいて、既成概念にとらわれることなく、自由な議論を行いながら進めてゆく。また、道元禅師の思想について、修証観・修道論・世界観・時間論・因果論・仏性論・教化論・言語観等、さまざまな論点から、道元禅師の著作に見られる教説に依りながら考察し、延いては、これら道元禅師の思想を現代社会にどう活かしていくことができるのかについても議論していく。

■ 宗学特講Ⅱ【演習】

角田 泰隆

『正法眼蔵』の諸巻を読む。まず諸写本と対校して本文を確定し、語注・出典・直訳・意訳を作成する。『正法眼蔵』は非常に難解であり、理解できない部分も多々あるが、用語の解釈や出典調べはもちろん、さまざまな資料や情報を収集して、皆で考えながら読解を試みる。あらかじめ『正法眼蔵』の本文を受講生に分担し、その分担箇所を各自担当して研究し、発表資料を作成し、その研究成果を作成資料にもとづいて授業において発表してもらい、共に考えながら読解していく。とにかく『正法眼蔵』の本文にしっかり向き合い、理解できるまで深く思考することが重要であり、それによって『正法眼蔵』を読解することの難しさと楽しさを味わう。

■ 宗学特講Ⅲ【演習】

石井 清純

仮字『正法眼蔵』の内容を、その他の道元禅師の著述と関連づけつつ演習する。主に大正新修大蔵経データベース（SAT）を活用しつつ、和文テキストに英訳を対比させる作業を行いながら、禅の国際化についての基礎概念を身につけられるような演習を行う。はじめに、仮字『正法眼蔵』の書誌および禅思想史上における位置づけ等について一通りの解説をしたのち、本文の演習にはいる。講読する巻は、年度毎に最初の講義時に指示する。

■ 禅学特講Ⅰ【講義】

晴山 俊英

禅宗におけるさまざまな戒律・清規文献の内容を検討しつつ、成立の過程を考察する。まずはこの講義の目標及びテーマを概説し、テキストの予備知識として各本の系統を確認、把握する。読み進めて行く際には、上述の点を意識して、関係する資料を丁寧に確認していきたい。この講義では、変遷の経緯を研究・確認していき、ルールの特長性と柔軟性を理解することを目標とする。また、この調査・研究に必要な文献の扱い方や、古文書の解読方法の技術を習得することも一つの目標となる。

■ 禅学特講Ⅰ【演習】

晴山 俊英

禅宗における戒律・清規文献を精読する。まずはテキストの予備知識としてその文献が影響を受けた可能性のある思想背景を考える。以降、段落毎に受講者に担当を割り振って演習を行う。日本中世の禅宗における戒の捉え方・意義を学ぶことが大きなテーマ。宗派ごとの相違や時代による変化を調査・意識しつつ、中世禅宗の戒や清規の解釈の独自性を炙り出し、禅宗の儀礼が日本仏教、ひいては日本文化の歴史に与えてきた影響を考え、把握・検証することを目標とする。

■ 禅学特講Ⅱ【演習】

松田 陽志

曹洞宗江戸期の円山道白（一六三六～一七一五）らによる嗣法制度改革（宗統復古運動）によって提起された嗣法論を通して、曹洞宗義に関わる議論の思想的展開を文献に基づいて検討する。特に今年度は、円山に対して直接的な批判を行なった天桂伝尊（一六四八～一七三五）の『正法眼蔵辨註』に対し、批判的註解を作した万仞道坦（一六九八～一七七五）の『正法眼蔵諫靈録』を関係文献と比較しながら精読することで、円山以降の嗣法論および修行論の論点について確認する。

■ インド仏教特講Ⅰ【演習】

矢島 道彦

インド仏教の研究のために必要な周辺の領域の文献を読む授業です。宗教としてはとくにジャイナ教、言語としてはアルダマーガディーなどのプラークリット（中期インド語）が中心となります。ジャイナ教の聖典・非聖典文献（注釈書・教義綱要書・説話文献など）の中から何をテキストとして取り上げるかについては、できるだけ受講者に配慮したいと思います。

■ インド仏教特講Ⅱ【講義】

池田 練太郎

仏教の思想及び実践には多様な形態が存在する。この講義では、インドの出家修行者の思想と実践の問題を中心に、それらが中国においてはどのように受け入れられ、変化していったのかという問題を考察する。したがって関連するインド撰述の仏典に目を向けるとともに、中国に伝えられ翻訳された諸文献の伝承にも着目し、仏教における思想と実践の総合的な説明をめざす。

■ インド仏教特講Ⅱ【演習】

池田 練太郎

5世紀インドの学僧Vasubandhu（世親）が著した論書Abhidharmakosabhasya（『阿毘達磨俱舍論』）の講読を通して、彼の思想的変遷やインド仏教思想史における存在意義について考察する。サンスクリット語原典、チベット訳・漢訳、及びインド・中国・チベット等で著された注釈書、さらに関連する諸資料を用いて、原典を精確に読解する力を身につけるとともに、広い視野で仏教思想について考察する能力を養うことを目指す。

■ インド仏教特講Ⅲ【演習】

松本 史朗

古典インド語（梵語）・仏教梵語で書かれたインド大乘仏典を、如来蔵思想、中観思想のテキストを中心に、漢訳等を参照して、講読する。

■ インド哲学特講【講義】

金沢 篤

サンスクリット語などで書かれた仏教文献を含むインドの基本的古典的な作品を原典に即して綿密に講読する。

■ インド哲学特講【演習】

金沢 篤

サンスクリット語で書かれたヒンドゥー教の基本的な宗教文献、哲学文献、文学作品を原典に即して綿密に講読する。

■ チベット仏教特講Ⅰ【講義】

四津谷 孝道

チベット仏教の特徴の一つは、「大乘仏教の思想的潮流の一つである中観思想を最高のものとする」ということである。これを仏教的な表現で言い換えるならば、チベット仏教においては、中観思想が了義の教え、すなわち究極的な教えであり、その他の教えはすべて中観思想を理解するために用意された未了義すなわち暫定的な教えということである。つまり、チベットにおいては、どんな思想形態を持った仏教であろうと、その正統性を主張しようとするならば、それが中観思想であることを標榜しなければならなかった。この講義においては、チベット仏教において、様々な宗派或は部派が自らの教義の正統性をどのように主張したかを教理的な側面ばかりでなく、教団相互の政治闘争という側面も視野にいれ、チベット仏教を広い視野の下で把握したい。

■ チベット仏教特講Ⅰ【演習】

四津谷 孝道

チベット仏教の歴史は、前期伝播時代と後期伝播時代の二つに大きく分けられる。前期伝播時代は中観自立派が支配的であった時代であり、一方後期伝播時代では、その中観自立派の思想よりも中観帰謬派の思想を優れたものとみなした時代であった。後期伝播時代に現れたゲルク派の開祖・ツォンカパは自他共に認める中観帰謬派の論者でありながらも、他方ことばや分別を重視する点においては中観自立派に近い態度を標榜した。この演習では、ツォンカパは中観帰謬派とか中観自立派という枠に限定されない、敢えて言えば、第三の中観思想の体系を築き上げたことを、彼の様々なテキストの中に確認していきたい。

■ チベット仏教特講Ⅱ【演習】

木村 誠司

仏教思想の淵源は、言うまでもなく、インドである。しかし、インド仏教は、全面的に他の国に受け入れられたのではない。咀嚼され、改変された部分も多い。インドでは、4-5世紀頃から、理屈重視の仏教学が始まった。だが、それは、我が国や中国で花開くことはなかった。一方、我が国の仏教とは、異質の仏教が、インドでは終末期まで、隆盛を極めたのであった。そのような理屈重視の仏教を形作ったのは、インド僧、世親・陳那・法称達である。彼らの思想を、探っていき、我が国の仏教を顧みたい。

■ 中国仏教特講Ⅰ【演習】

吉村 誠

唯識思想を中国に伝えた玄奘（602-664）の事跡を中心に、瑜伽行唯識派の歴史的展開や、心識説や三性説などの唯識教義の発展過程、唯識思想と如来蔵思想との交渉などを、文献学的ないし思想史的方法を中心に考察する。主な資料として、史伝では『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』『続高僧伝』『大唐西域記』など、論書では『瑜伽師地論』『撰大乘論』『成唯識論』のほか『大乘起信論』『華嚴五教章』などを精読する。

■ 中国仏教特講Ⅲ【講義】

奥野 光賢

中国隋代に三論学派（三論宗）を大成した嘉祥大師吉蔵（549-623）の教学を中心に同時代の浄影寺慧遠（523-592）、天台大師智顛（538-597）等の教学にも目を配りながら、あわせて先行する仏教者の各種学説も意識して講義を行う。

■ 中国仏教特講Ⅲ【演習】

奥野 光賢

講義科目「中国仏教特講Ⅲ」と連動させるかたち、実際に講読文献を選定し、純然たる演習として当番を決めて文献講読を行う。

■ 中国禅宗史特講Ⅰ【演習】

小川 隆

中国禅宗文献読解の基礎的訓練を行う。唐宋代の口語の語彙と語法に即して禅宗文献を精確に読み解けるようになることを目指す。

■ 中国禅宗史特講Ⅱ【講義】

程 正

敦煌遺書から出現した敦煌禅宗文献は、初期禅宗史研究に長足の進展をもたらした。この授業はまず敦煌禅宗文献の主な内容や基本的構成などを概観してから、禅宗史の時代区分に沿って個々の敦煌禅籍の研究史を回顧しつつ、それぞれの思想的特徴、文献的性格、禅宗史における役割を明らかにしていきたいと考えている。

■ 中国禅宗史特講Ⅱ【演習】

程 正

敦煌禅宗文献に含まれる未校訂のものから文献を選定し、敦煌写本に基づくテキストの校勘、読解の訓練を行う。敦煌禅宗文献の特異性を認識し、古写本の校勘技術、読解力を身につけることを目指す。

■ 日本仏教特講Ⅱ【演習】

飯塚 大展

日本仏教における聖教類（経典・祖録・注釈書）、並びに日本仏教史に関連する史料の講読を中心に講義を行なう。同時代史料との比較検討を行い、史料成立時の解釈を考察すると共に、注釈史的視点からその変容を考察する。

■ 日本禅宗史特講Ⅰ【講義】

佐藤 秀孝

この授業は日本の禅宗の歴史に関する講義である。特に中世の臨済宗・曹洞宗の禅僧の語録や詩文集さらに伝記史料などを踏まえて講義を行い、日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼした禅僧たちの足跡を辿ることにしたい。栄西や道元、円爾や覚心などの日本僧、蘭溪道隆や無学祖元などの渡来僧の事跡を探る。

■ 日本禅宗史特講Ⅰ【演習】

佐藤 秀孝

この授業は日本の禅宗の歴史に関する演習である。中世の臨済宗・曹洞宗の禅僧の伝記史料を演習講読し、日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼした禅僧の足跡を辿ることにしたい。とくに日中間を往来した日本僧や中国僧のものを中心とする。本年度は昨年引きつづき入元僧の大拙祖能（1313-1377）の伝記史料『前住建長大拙和尚年譜』を読み進める。

■ 仏教学特講Ⅱ【講義】

石井 公成

東アジア仏教に大きな影響を与え、真偽をめぐって論争が続いている『大乘起信論』をとりあげ、その成立事情と東アジア諸国における受容形態について検討する。

■ 仏教学特講Ⅱ【演習】

石井 公成

八世紀初頭の北宗禅文献である『楞伽師資記』、および華嚴と禅を学んだ華嚴宗の宗密の諸著作を中心として、禅宗と『楞伽経』の関係、禅宗と地論・華嚴教学の関係について検討する。そうした作業を通じて、インド以来の仏教史と中国思想史における禅宗の位置と意義を明らかにしたい。敦煌写本を読む訓練、コンピュータを使った研究の練習を兼ねる。

■ 仏教学特講Ⅲ【演習】

長谷部 八朗

我が国では古来、山を聖なる空間として崇める観念・信仰を発達させてきた。日本に伝来した仏教のその後の展開を見るならば、こうした山岳信仰との交流を通してもたらされた影響には、きわめて大きなものがあるといえよう。その影響には、たとえば、修験道や土着の山神信仰との習合という日本仏教のもつシンクレティックな形態にうかがうことができる。本演習では、諸宗教の主要な拠点となす霊山のいくつかを取り上げ、信仰形成の過程と現状について、とくに伝承や縁起、講社組織、周辺地域との関連等に着眼して学ぶ。

■ 仏教美術史特講【講義】

村松 哲文

中国南北朝期における石窟内の仏教美術について、関連文献の『梁高僧伝』、『魏書』やモチーフに関わる経典を読解しながら、図像的な特徴を捉えていく。特に日本の仏教美術に影響を与えたと考えられる作品を中心に考察したい。一つの造像が他の地域に伝わると、その時代、地域の状況によって表現上の変化をおこす。講義では、まず広大な中国国内での図像における変容について考察し、その原因を信仰史・社会史の中で捉えていきたいと考えている。

■ 仏教美術史特講【演習】

村松 哲文

美術史の研究は、文献の読解と作例の研究を両輪にして、上手く進めなければならないといわれる。演習では、中国南北朝の仏教美術史について、図像の変化を考察していくが、常に信仰史と社会史の中で捉えていく意識をもってもらいたい。図像の変容が、単なる制作者の芸術性だけでなく、なるべくしてなった原因があるからである。また実物を観察し、真贋を見極める力も重要である。日ごろから実物を観察する習慣を身につける必要があるので、博物館や美術館、寺院には足しげく通ってもらいたい。

■ 宗教人類学特講【講義】

矢野 秀武

本講義では、人類学とその隣接領域における宗教研究の諸相について学ぶ。宗教に関する重要なテーマや理論について、文化人類学的な研究を基本に、宗教学、社会学など隣接分野の視点も加味して考察する。またタイやミャンマーなど東南アジアの上座仏教研究の事例を取り上げ、日本の宗教を見る際の視野を広げる。授業は講義形態で行うが、事前課題を課し、授業時に質疑応答なども行う。

■ 宗教人類学特講【演習】

矢野 秀武

本演習では、宗教現象に関する、文化人類学ならびに隣接学問領域（宗教学や社会学など）の専門書・論文（日本語と英語）を読み、宗教研究に関する視点や分析の手法を学ぶ。また、人類学その他の調査方法ならびに論文執筆方法について学習する。

(2) 博士後期課程

● 目的

仏教学専攻は、仏教学における精深かつ高度で専門的な知識と自立した研究能力を有し、文化の進展と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的とする。

● 学位授与の方針

博士後期課程（課程博士）の学位については、修士課程での研究成果をもとに、さらに専門的な知識と教養を修得し、より高度な研究水準の博士論文を所定の年限で作成した者に授与する。その認定は、業績審査委員会の報告を受けて、人文科学研究科仏教学専攻委員会の審議を経てなされる。いわゆる論文博士もこれに準ずるものである。

● 教育課程の編成・実施方針

博士後期課程においては、研究能力の一層の向上と課程博士の学位論文作成・提出に向けて、指導教員による綿密な指導がなされる。また修士課程・博士後期課程の院生を中心に大学院仏教学研究会が組織され、定例研究発表の場が設けられている。とくに博士後期課程の院生には駒澤大学仏教学会での研究発表の機会も与えられる。

● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修しなければならない。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の講義4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義4単位および研究指導		

● 学位論文の審査基準

博士論文においては、学位規程に則り主査・副査合わせて三人以上による審査委員会を設置し、厳正かつ客観的な審査が実施される。高度な専門性が問われるものであるため、専門分野に応じては学外の専門家を審査に加えることもある。博士論文ではその評価に際し、何よりも研究の堅実性・独自性が重視される。

また、論文提出前には、およそ一ヶ月間にわたり、各審査委員による事前審査期間を設けている。論文提出後には、主査1名、副査2名で構成される審査（口頭試問）を実施し、各審査員が評価を行う。

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得なければならない。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備考
宗学特殊研究Ⅰ 宗学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任 岩永正晴	
宗学特殊研究Ⅱ 宗学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任 石井清純	
宗学特殊研究Ⅲ 宗学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任・博(文) 角田泰隆	
禅学特殊研究Ⅰ 禅学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任 晴山俊英	
インド仏教特殊研究Ⅱ インド仏教研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博(仏) 松本史朗	
インド仏教史特殊研究 インド仏教史研究指導	講義 研究指導	4	専任 池田練太郎	
インド哲学特殊研究 インド哲学研究指導	講義 研究指導	4	専任 金沢篤	
チベット仏教特殊研究Ⅰ チベット仏教研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・Ph.D. 博(仏) 四津谷孝道	

チベット仏教特殊研究Ⅱ チベット仏教研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任	木村 誠司	
中国仏教特殊研究Ⅰ 中国仏教研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(文)	吉村 誠	
中国仏教史特殊研究 中国仏教史研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(仏)	奥野 光賢	
中国禅宗史特殊研究 中国禅宗史研究指導	講義 研究指導	4	兼担・博(文)	小川 隆	
日本仏教特殊研究 日本仏教研究指導	講義 研究指導	4	専任	飯塚 大展	
日本禅宗史特殊研究 日本禅宗史研究指導	講義 研究指導	4	専任	佐藤 秀孝	
仏教学特殊研究Ⅱ 仏教学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博(文)	石井 公成	
宗教学特殊研究 宗教学研究指導	講義 研究指導	4	専任	長谷部 八朗	

● 授業科目の概要

■ 宗学特殊研究Ⅰ【講義】 ■ 宗学研究指導Ⅰ【研究指導】

岩永 正晴

『正法眼藏』の注釈書類を中心として、まだ訳註の施されていない曹洞宗典籍を取り上げ、その訳註作業を行う。参加者の文献学的な読解の力を培うことを目的とする。

■ 宗学特殊研究Ⅱ【講義】 ■ 宗学研究指導Ⅱ【研究指導】

石井 清純

道元禅師の各著述を、それぞれの関連性を意識しながら読み進める。なお、演習に当たって、原典の英訳の比較対象も行うことにより、英語表記の可能性についても検討してゆく。特に、難解とされる仮字『正法眼藏』について、各種註釈書の注釈傾向を意識しながら参照するとともに、さらに英訳を参照することにより、多角的な分析能力を養うことを目的とする。すべて演習形式とし、選択した資料を適宜読み進めてゆく。引用典の検索には、インターネット上の電子テキストを積極的に利用するので、その方法等についても、適宜実習を行う。

■ 宗学特殊研究Ⅲ【講義】 ■ 宗学研究指導Ⅲ【研究指導】

角田 泰隆

仏教は、学ばなくては説くことはできないが、学んでも説くことがなければその存在意義を失う。道元禅師は弘法救生の思いを常に深く心に願われていたと思われるが、仏教を学ぶ者は自ら学び行ずるだけでなく、これと同様の誓願を持たなければならぬであろう。道元禅師は比類なき多くの言葉を説き、その言葉は今日まで代々伝えられてきている。しかしその教えが広く一般社会にも伝えられているかと言えば、残念ながらその方途も努力も乏しい。近代、道元禅師の教説を敷衍すべく、その著作の中から聖句を抜粋・編集して種々の経典が作成され、就中『修証義』は在家化導の教典として明治期以後、曹洞宗檀信徒を中心に広く流布したが、はたして真に道元禅師の仏法の真髄を表証したものと言えるかという疑問である。この講義では、これらの問題について大いに議論し、『修証義』に代わる、現代に相応した新たな教典の編纂の可能性を探りたい。

■ 禅学特殊研究Ⅰ【講義】 ■ 禅学研究指導Ⅰ【研究指導】

晴山 俊英

禅宗における戒律・清規文献を精読しつつ、より広範に関連資料を渉猟し、その文献に示される思想の成立過程や、後代に与えた影響を探る。必要に応じて、資料調査に足を運び、それまでに得られなかった内容を解明していくことも視野に入れていく。また、実践的な内容については、より正確に動作を把握できるよう、あるいは文献との差異を確認するために、文字だけではなく現代の儀礼の現場も見聞していきたい。

■ インド仏教特殊研究Ⅱ【講義】
■ インド仏教研究指導Ⅱ【研究指導】

松本 史朗

インド大乘仏教の経典や論書のうち、如来蔵思想・仏性思想を説くサンスクリット語・チベット語・漢訳のテキスト読解し、その思想的意義を、原始仏教思想との関連やインド哲学との関係を視野に入れて、研究する。

■ インド仏教史特殊研究【講義】
■ インド仏教史研究指導【研究指導】

池田 練太郎

部派仏教におけるそれぞれの部派の思想的全体像は、現在でも十分解明されているとはいえない。本講義では、インド仏教僧の著作講読を通して、大乘仏教の成立にも深く関わった説一切有部やその他の部派、さらにはインド哲学諸派の著作にも注意を向けながら、部派仏教の思想解明の手掛かりを探り、その過程を通してインド仏教思想史を総合的に考察する力を身につける。

■ インド哲学特殊研究【講義】
■ インド哲学研究指導【研究指導】

金沢 篤

サンスクリット語で書かれたインドの古典的な哲学文献のテキスト批判とテキストの確定、及びそのテキストの一字一句を忽せにしない綿密な批判的講読を展開する。

■ チベット仏教特殊研究Ⅰ【講義】
■ チベット仏教研究指導Ⅰ【研究指導】

四津谷 孝道

インドの大乘仏教においては、すべての事物の非実在性すなわち空性を主張する中観思想が現われ、それに対して、本源的な心に実体性を付与し、その心にもとづいて、それ以外の事物が実在しないことを強調する唯識思想、さらには如来蔵・仏性という実体的な存在を積極的に認める如来蔵思想が現われた。そして、それぞれの思想の信奉者たちは、自分たちこそが釈尊の教えの正しい理解者であること、つまり仏陀の教説の忠実な継承者であることを立証することに鎬を削った。この講義においては、上述のインドの大乘仏教の思想的な潮流が、チベットにおいてどのように受容され、発展し、チベット仏教の特殊な形態が形成されていったかを様々な文献を通して探究してみたい。

■ チベット仏教特殊研究Ⅱ【講義】
■ チベット仏教研究指導Ⅱ【研究指導】

木村 誠司

現在「仏教論理学」と称される学問分野がある。聞き慣れないだろうが、今でいう、認識論・論理学と相似している。非常に理屈っぽい学問で、宗教的テーマを理屈の枠組みで処理しようとする。元来、理屈好きのインドでは、この種の学問が、学派を問わず隆盛を迎えた。そして、それを、実質的にリードしていたのは、インドの仏教僧達であった。彼らの思想を、その始原から探り、他宗派との論点を描き出す作業は、まだ、未完成であるが、インド思想とは、一体何なのかを明白にするためには、避けて通れない作業でもある。まず、彼らの中の、ビッグネーム、世親・陳那・法称等のテキストを中心に据える。それからインド撰述の注釈や反論書等を参照し、更に、昨今、その重要性が指摘されるチベット人の注釈書まで含めた考察を目指す。

■ 中国仏教特殊研究Ⅰ【講義】
■ 中国仏教研究指導Ⅰ【研究指導】

吉村 誠

中国におけるインド仏教の受容と展開を研究する。中国では漢代から隋・唐時代にかけて大量の仏典がもたらされ、その翻訳や儒教・道教との交渉を通じて独自の仏教が形成された。また、中国仏教は韓国・日本などの周辺諸国に伝播し、東アジア仏教の思想的・文化的基盤ともなった。この分野を研究する上で必要な文献・歴史・思想・文化に関する方法を、受講生の研究テーマに応じて、文献講読を行いながら研究指導する。

■ 中国仏教史特殊研究【講義】
■ 中国仏教史研究指導【研究指導】

奥野 光賢

中国南北朝，隋・唐代の仏教思想に関して，受講生の研究テーマに沿って，文献講読を行いつつ，博士論文の完成に向けて研究指導を行う。研究指導は，論文指導が中心となるので受講生は定期的レポート提出が必須となる。

■ 中国禅宗史特殊研究【講義】
■ 中国禅宗史研究指導【研究指導】

小川 隆

語学的読解の次元を超えて中国禅宗文献の思想史的研究を自力で行えるようになるための訓練を行う。

■ 日本仏教特殊研究【講義】
■ 日本仏教研究指導【研究指導】

飯塚 大展

日本仏教における聖教類（経典・祖録・注釈書），並びに日本仏教史に関連する史料の講読を中心に講義を行う。同時代史料との比較検討を行い，史料成立時の解釈を考察すると共に，注釈史的視点からその変容を考察する。

■ 日本禅宗史特殊研究【講義】
■ 日本禅宗史研究指導【研究指導】

佐藤 秀孝

この授業は日本の禅宗の歴史に関する講義と研究指導である。特に中世に展開した臨済宗と曹洞宗を課題としており，日本の歴史と文化に大きく影響した禅僧について伝記史料や著作語録などを踏まえて指導していく。ただし，指導する大学院生の研究対象に応じて随意に個別の指導を行うものである。

■ 仏教学特殊研究Ⅱ【講義】
■ 仏教学研究指導Ⅱ【研究指導】

石井 公成

南北朝から唐代にかけての仏性説・如来蔵説を考えるうえで重要な『仏性論』を検討する。『起信論』との関係に注意しながら梵文『宝性論』と漢訳『仏性論』との関係を比較検討し，あわせてコンピュータによる分析方法についても指導する。

■ 宗教学特殊研究【講義】
■ 宗教学研究指導【研究指導】

長谷部 八朗

宗教学は，諸種の宗教現象を比較・検討し，宗教の本質を客観的・実証的に探究することをめざす。その際に，個々の宗教現象は，それぞれ歴史的な変遷の課程を経て展開してきたといえる。したがって宗教現象は，こうした歴史的背景を通して理解する必要がある。その意味で宗教学と宗教史学は密接にかかわっている。本講義では，宗教史学の観点から日本宗教史に関する従来の研究諸成果を取り上げ，その特徴と課題を追求する。